

平成23年第4回まちづくりトーク

会 議 録

「地域力」でまちを元気に！わたしのまち再発見！ IN 池子小学校区

～池子小学校区の取組みから学ぶ～

2011年（平成23年）9月11日（日）

10：00～12：00

逗子アリーナ

【司会（福本課長）】 皆さん、こんにちは。本日は御多忙のところお集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので開始いたします。私は司会進行を務める市民協働課の福本と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、本日のテーマ「地域力」でまちを元気に！わたしのまち再発見！IN 池子小学校区」です。小坪・久木・沼間に続きまして、地域版のまちづくりトーク第4弾となります。孤独死の問題や子育ての孤立化などの問題に加え、東日本大震災の影響もありまして、今、改めてコミュニティが見直されています。人と人がつながることの基盤の一つとして、自治会・町内会はこれまで以上に役割が大きくなっていくものと期待されていますし、地域の皆様による具体的な活動がコミュニティを育てていくものだとして認識しているところです。こうした観点から、池子小学校区地域の取り組みを皆で共有し、そして今後に向けて意見交換を行いたいと考えています。

本日は2時間弱の予定です。前半は地域の皆様から活動の御報告をいただき、その後簡単なワークショップ、そして市長の進行による意見交換を予定しています。途中の休憩時間は設けてございません。トイレ休憩等は適宜御自由にお取りいただけたらと思います。

お配りした資料ですが、こうした小さいものが2枚あるかと思います。「わたしのふれあい名刺」といったことですが、この秋にですね、地域の中でもっともっとコミュニケーションの密度を上げようといったことでもって、あいさつ運動、そしてこの名刺を配って私のことを知ってもらおうといったようなことを展開しようと考えているところです。これはですね、モデル的につくったものなんです、こういったようなその名刺ですね。会社の名刺ではなくて、地域に生活する私の名刺といったことでもって名刺をつくって、近所の方に、あるいは何かの会議で知り合った方に配っていただいて、もっともっとつながっていきましょうといった趣旨です。きょうはですね、後半のワークショップのところで周りの方にですね、この名刺を実際に配ってみたいと思いますので、これからまちづくりトークが始まりますけども、時間を見つけてですね、ぜひ御記入をお願いをしたいと思います。

あともう1枚、こうしたものですね。「池子小学校地区の地域活動資源の棚卸しシート」となっております。これも後半のワークショップで使用いたします。裏表になっておりまして、1番、2番ありますが、これはですね、池子小学校区で今現在行われていること、あるいは地域活動に役立つような何かですね。例えば建物であったり、あるいはその何ていうかね、人とのつながりであったりといったようなものを資源としてとらえて、みんなで共有していきましょう

いったように考えているところです。1番のほうは現在あるもの、行われていること。で、裏のほうはですね、今はないんだけども将来あってほしい、行われてほしいといったようなことをお書きいただくようになっております。それぞれにつきまして御自分がですね、何ができるのかというのが一番下の欄ですが、「スタッフとして働く」から始まりまして、いろいろなかわり方があるかと思いますが、私は地域に対して何ができるんだろうかといったような観点からちょっと御記入をいただけたらなと思います。これもですね、後半のワークシート、ごめんなさい、後半のワークショップで使いますので、発表を聞きながら気がついたことがあったら、どんどん御記入をいただきたいなと思います。

ではここで、市長よりごあいさつ申し上げます。

【平井市長】 皆さんこんにちは。逗子市長の平井竜一です。ちょっと雨が心配でしたけれども、何とか上がって暑くもなく、少し涼しい陽気できょうを迎えることができました。池子地域のまちづくりトークにですね、本当に多くの皆さんにお集まりをいただいてありがとうございます。今、司会のほうから御案内したとおり地域版のトークの4回目ということで、池子の皆さんにきょうお集まりをいただいて、池子の地域の中でどんなことをやっているかということとを共有いただいて、これからさらにこの池子地区がですね、もっともっと活性化していい地域になるようなディスカッションができればなど、そんなふうに思っております。

これまでいろんな地域の皆さんとそれぞれ地区ごとに対話してきましたけども、本当に地域の特色もあり、本当にいろんな一生懸命活動をしていただいている方がこんなにたくさん逗子にいるんだなということを改めて実感できて、私もとても勇気づけられております。もう池子もこのきょう資料を見ただけでも、本当に長い時間を地域に根差して活動されてるっていうね、本当に楽しみにしておりますので、きょうどうぞ一日よろしく願いをいたします。

【司会（福本課長）】 ありがとうございます。本日は副市長も同席しておりますので紹介いたします。小田副市長です。

【小田副市長】 皆様おはようございます。小田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会（福本課長）】 では、これより活動の報告に移りたいと思います。報告の予定ですが、お手元の資料1枚目ですね、こういったものにかかれていとおります。市長からの報告も加えまして10項目と盛りだくさんになっておりまして、残念ながら一つ一つに十分な時間をですね、御用意することができませんでした。1項目、数分となってしまうことを御容赦いただきたいと思います。

進行の都合上、途中でベルを鳴らせていただきます。ちょっと耳障りな部分もありますけれども、時間が2時間と限られておりますので、よろしく御理解をお願いしたいと思います。ちなみにちょっと、どんなふうに鳴るかといいますと、ここの次第のちょうど真ん中あたりに「タイムキーパー（1分、5分で1回、2分、7分で2回）」、まあ2回鳴ると時間が終わったなということで、まとめに入っていたきたいなといったところです。ちょっと鳴らしてみますが（ベル）、こんな音が鳴りますので、よろしくをお願いします。

では発表に移りたいと思います。まず初めに「池子アザリエ連合自治会の取り組み方法の概要」につきまして、池子アザリエ連合自治会副会長の伊藤様、よろしくをお願いしたいと思います。

【伊藤】 皆様おはようございます。御紹介にあずかりました伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

池子アザリエ連合自治会ができましたのは昭和48年ごろです。スタートしまして、今年でちょうど38年。当時は8町会と称しまして、1時間ぐらいの予定で、毎月最終土曜日の午後7時から行っております。会長、連合自治会の会長を議長としまして、各自治会がですね、当番で司会を務めております。このしきたりは最初から受け継がれております。現在では11自治会にて構成され、今では池子アザリエ連合自治会と改名し運営しております。

最初は分担金を取っておりましたが、事情がありましてこれは分担金は取らない、無償でやろうということになりました。各自治会の会長は毎年変わりますが、連合会長、副会長、池子区長、体育指導員の委員の方たちは変わらず、毎年変わらず出ております。各自治会長さんは自治会内の困りごと、または相談等あらゆることを話し合う場ともなっております。会長さんの中にはいろいろなことに熟知した会長さんもいらっしゃるもので、それはとてもためになり、話が弾むことがあります。

この会合には池子駐在所の警部補の刎ヤさんも池子の一員として出席され、防犯等被害に遭わない方法などをお話しくださるので、皆さん大変喜んでおります。また、生活に関係しミニバスの運行、これはもう10年前に既にミニバスは運行されております。そういうようなことも皆さんで話し合っ、市のほう、それから京浜急行のほうに陳情に行っ、通るようになりました。また、道路の補修などあらゆる話をする場となっています。またPTA、体育指導員、避難所運営委員、池子区祭礼、防犯指導員、あらゆる行事をこの場で発表し、各自治会の協力をお願いしております。池子全体といたしまして、非常にまとまりのある会として私は評価して

おります。それから町内会の会長さんたちも3カ月、半年とたつにつれて各自治会の会長さんたちがですね、和気あいあいとその場で自分たちの話を、個人的な話もでき、非常に楽しい絆ができていると私は自負しております。以上です。ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本課長）】 伊藤様、ありがとうございました。各単位の自治会がそもそも地域力なんですけども、それがつながることによって、もっともっといろんなことができるといったようなことの取り組みだと思えます。ありがとうございました。

では2つ目です。「池子の祭り」につきまして池子区会区長の齊藤様、お願いします。

【齊藤】 皆さん、おはようございます。私、池子区の区長を務めております齊藤でございます。きょうは池子の祭りについてお話をさせていただきます。ちょっと座らせてやらせていただきます。

その前にですね、池子区会の概要を若干説明させてください。池子区会は池子1丁目から池子4丁目まで、県道の金沢逗子線の沿線にあります795世帯の自治会でございます。そして池子区会の組織図、見ていただいておりますけれども、この中に神社担当、そして保存担当でございます。この保存担当にはおみこしとおはやしあるんですが、これが池子区会の最大の特色ある担当でございます。ほかの自治会にはない担当だと思っております。きょうはこの自治会、担当をですね、池子の鎮守様であります池子神明社をお守りする担当でございます。きょうはこの池子神明社の夏祭り、この中でもですね、特に池子に古くから伝わります、由緒ある「天皇みこし」と呼ばれるみこしにスポットを当ててお話をさせていただきます。

池子村、昔は池子村と言っていたんですが、池子村は寛永15年、寛永15年といいますと徳川3代将軍家光の時代、寛永15年から明治6年まで、鎌倉の扇ガ谷というところに現在もございませぬ浄土宗の尼寺、英勝寺の寺領でございました、この池子区は。そしてこの英勝寺は非常に由緒あるお寺様で、徳川家康の御側室、お勝の方が開立したお寺でございます。そしてこのお勝の方は家康の御側室でございますが、太田道灌5代目のお孫さんでございまして、なおかつ徳川御三家の一つであります水戸家の水戸初代藩主、水戸頼房の御養母さんでもございました。そして家康が亡くなった後に英勝院と名乗りまして、英勝寺を開立したものでございます。そして初代住職にですね、水戸頼房の娘、小良姫を養女と迎えまして、初代住職となった。さらに英勝院没後はですね、代々水戸家のお姫様、この方が住職になられてこられたために、このお寺「水戸御前」とも呼ばれておりました。そしてこのため、池子村の領民たちはですね、英勝寺の領民というよりは水戸家の領民としての誇りを持って、非常な名誉と心得ていたそうで

ございます。ちなみに皆さん、テレビとかラジオでおなじみの水戸黄門さん、この方も英勝寺に訪問なされたことがあるそうでございます。

さて、天皇みこしの由来でございますけれども、英勝寺の、この池子村が英勝寺の寺領になってから150年後、天明8年、この天明8年といいますと徳川の11代将軍徳川家斉の時代、今から約223年前でございます。池子にですね、やはり病が蔓延しました。そしてですね、村民が大変苦しんだそうでございます。そのために、それを耳にしました英勝寺の5代目住職戒光院さんがごふびんに思われまして、牛頭天王、疫病、やはり病を封ずるための神様、牛頭天王をお祭りした白木のみこし、そしてそれとともに葵の御紋つきの高張りちょうちん2個をこの池子に贈ったものが、私どもが今かついでおります池子のみこし、天皇みこしのもとになっております。

そして今現在そのみこしが、ちょっと見にくいんですけれども、黒と朱塗りの今、みこしなんですけれども、これにつきましてはそれから53年後、英勝寺の6代目住職英暉院さんが再度池子に贈られたものでございます。そしてこれを明治13年、明治44年、平成2年の修理を経ましてですね、現在のみこしになっております。今、これ図には出ないんですが、実はこの修理の経緯につきましては、みこしの内部にありました記録書によってちゃんと明記されております。

そして、今、皆さんがごらんになってるこの天皇みこしなんです、前のみこしの絵のほうがかつたんですけれども、水戸家ゆかりの英勝寺から贈られたということなんで、このみこしには葵の御紋が入った立派なおみこしでございます。そして今、私、牛頭天王と申し上げましたけれども、この牛頭天王はインドの祇園精舎の守護神と言われております。そしてですね、疫病よけの神様、全国祭られているんですけれども、特に有名な神社はですね、京都の八坂神社、この御祭神が牛頭天王様でございます。

そしてこの天皇みこしですね、私ども10年前までは、渡御の際に車に乗せて渡御しておりました。けれどもこの由緒と歴史のある天皇みこしをですね、ぜひかついでいるのを見てみたいと、かつぎたいなど、ぜひかついでくださいよという声がたくさん上がりました、池子の中から。それに伴いまして私ども、平成15年、有志によりましてみこし保存会、先ほど池子区の中にありましたけどもみこし保存会を立ち上げまして、現在のこのみこし、白装束に烏帽子という形なんです、写真もう1つありませんか。あ、それ。白装束にですね、烏帽子といういでたちで現在はみこしをかついでおります。保存会ができてから9年目になりますけれども、も

う現在ではこのいでたちでかつぐみこしというものは、池子の中ではもう夏祭りにはなくてはならない一番のメインとして定着して、現在池子の皆さんの目を非常に楽しませていただいております。

それですね、この写真にあります白装束で烏帽子でかついでいるかつぎ衆につきましては、池子に住んでいる人、そして池子に、地域にある企業に勤める人だけに限りました。そのためですね、池子の人たち、多く若者たちが参加していただいております。そしてさらに相乗効果だと思います。池子の地域の活性化にも非常に貢献していただいております。

今、鐘が鳴りましたので最後になりますけれども、私ども池子区会はずね、神明社の夏祭りだけではありません。区民一体となってすべて、何事をやるにしても区民一体となってやることを心がけております。そのためだけではないと思いますが、この逗子市の自治会の加入率、私ども池子区会は、これ4つばかり出てるんですが、これ今、クイズ形式でやるはずだったんですが時間がないんで、4番目の92.8%と、逗子市で一番の自治会の加入率を誇っております。これは全国でも多分90%を超える自治会の加入率はないと思っております。まあ、そういうことで取りとめのない話になりましたが、一応これで終わらせていただきます。御静聴ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本課長）】 齊藤様、ありがとうございました。ちなみに展開が早かったんで見えづらかったんですが、最後、逗子全体では70%ちょっとですね。なので池子は圧倒的に高いんです。お祭りということでしたが、地域にはこうした歴史があって、それをつなげていくということは地域にとってはやはり大事な機能なのかなといったことを改めて認識させていただきました。ありがとうございました。

続きまして3番目です。「池子小の避難所運営委員会」につきまして、池子小学校区避難所運営委員会事務局長の松並様をお願いいたします。

【松並】 おはようございます。避難所運営委員会の松並です。どうぞよろしく願いいたします。また、きのう避難所訓練がありまして、皆さんに御協力いただきましてどうもありがとうございました。この場でお礼を申し上げたいと思います。今までは180名前後だったんですけど、一応200名の大台に乗りましたので、それを非常にうれしく思っております。じゃあ座らせて、ちょっといただきます。

前のあれに書いてあるんですけど、避難行動ということで、避難所、これの位置づけについて皆さんに知っておいてもらいたいということで、まず最初に広域避難場所。これは池子地区

につきましては運動公園とか逗子中の校庭とか、要は大がかりな火事、そういう災害があったときに逃げる場所ということです。あと、一時避難場所とは、これは各自治体で設定していて、自治体、何かあったらそこに集まろうという形です。例えば私の所属しているアザリエ第一につきましては南公園、これが一時避難所になっております。あと避難所、これが我々が運営委員会を立ち上げてやっているところですけど、一応災害が一段落したとき、家を失った方やちょっと家に住めないとか、そういう方たちが臨時的に生活する場所ということで、池子地区には池子小学校と逗子中学、2カ所があります。

避難所運営委員会の役割分担としましては、避難所で生活していく上で、ここに書いてあります総務班から、最後の情報広報班、これ各役員を決めましてそれぞれの仕事、ちょっと仕事の内容は細かくしゃべりますと時間がないので、一応こういう班に分けてそれぞれ役員を中心に進めております。

それで、きのうやりました避難所訓練の風景ですけど、会長のあいさつから始まりまして、池子小学校の体育館を使いまして、各催しって言ったらおかしいですけど、食料班が食事を配ったり、これは簡易トイレを組み立てているところです。これは活断層の関係で、活断層がもう地震が起きるとこうなりますよということでやっていただいております。これがちょっとうちの特徴としまして、ここに集まっている方、高校生及び中学生です。きのうは逗子中学と逗子高校にボランティアをお願いいたしました。そしてかけつけてくれたみんなが、集まってちょっとミーティングをやっているところです。やはり池子地区といいますと、はっきり言って年寄りが多いんで、どうしても若い人の力が大切であるということでもあります。

これは受付をやっている状態なんですけど、最初に受付をやっていただいて、この池子小学校の避難所へだれが来ているかが明確になるような形で受付をやっております。これが各地域でポストカードに名前を書いて、各地域の人が来てるよということで明示するようにしております。これは消防署の方に御協力いただきまして、AED、今、はやってるって言ったらおかしいですけど、心臓の鼓動が止まったときにやるやつですね。その実技訓練をやっているところです。これが濾水機と言いまして、小学校のプール、ここに水が張ってありますので、その水を生活用水と、もう一つはこの濾水機を使いまして飲料水として使用するという訓練を行っております。あと、これも同じですが、消防をお願いしまして水消火器、実際の消火器とは違うんですけど水消火器ということで消火訓練。消火器は皆さんのお家にあると思うんですけど、実際に使うということがないと思いますので、非常に大事な訓練だと思っております。

一応訓練の内容は以上のとおりなんですけど、皆さんに知っておいていただきたいのがありますので、ちょっと御紹介したいと思いますが。現在北日本の避難所なんかで生活されてる方、これテレビなんかでよく見られると思うんですけど、あそこには行政、あとボランティア、極端に言えば自衛隊の方たちがお見えになってます。ところがですね、あれはあくまでも震災があって一段落ついてからということなんです。この避難所の重要性というのは、はっきり言いまして72時間、災害発生から72時間、まあ3日間ですね。これにつきましては行政、ボランティア、こんなこと言ったら怒られるかもしれませんが、当てになりません。当てにならないというより、行政は行政で人を集めたり、いろいろ情報収集がありますので、実際に避難所へ来るのは大体72時間後ぐらいから活動されると思います。じゃあその72時間をどうするか、これが避難所の重要なところですよ。

避難所は今、各運営委員がいるんですけど、運営委員が全員集まるということではできないと思います。例えば私、事務局長やってますけど、私が被災しますと行けません。そうすると何もできないっていうんじゃないかなと思いますので、あくまでも避難所に集められた方、この方たちで運営していくしかないんです。そのためには何をしないといけないか。また、逆にこういうことがあるよというのを知っていただくのが訓練だと思っておりますので、数多くの方の訓練の参加、現在、先ほど言いましたとおり今回は200名超えたということで、5回今までありまして、180名とかいう人数集まっておりますので、延べにしますと大体1,000名近くの方が今まで集まっておられると思いますので、その方々が避難されたときにそれを思い出して運営していただく。72時間たちますと、行政とかそういうの入ってきますので大丈夫だと思うんですけど、その72時間が重要になってくると思いますので、皆さんの、これからまだ訓練は毎年ありますので、今後ともよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。（拍手）

【司会（福本課長）】 松並様、ありがとうございました。今の訓練、初めて聞いたという方、ちなみにいらっしゃいますか。池小でやってるの知らなかったと。あ、じゃあ情報は行き渡ってますので、ぜひ今後もですね、訓練、皆さん御参加いただけたらなと思います。

続きまして4番目「安心生活創造事業」につきまして、池子区会福祉担当理事の柏村様、お願いいたします。

【柏村】 柏村でございます。御説明させていただきます。

安心生活創造事業、「お互いさま池子」という名前をつけてございますけども、これは平成21年12月にですね、社会福祉協議会のほうから話がございまして、区会としてじゃあ今後の進め

方をどういう形でやっていくのか、事業の内容なり進め方について議論をしていこうという形で委員会を、準備委員会を発足させたわけですけども。

ちなみにちょっと池子区内の実情をお話ししますと、これは平成22年4月現在のデータでございますけども、民生委員・児童委員さんがかかわる住民の方が48名、それから災害時要援護者、登録されてる方が24名、それから発達障害という方が2世帯、それから要介護認定者268名というような実情でございますけども、こういう中を、じゃあどういう委員をつくるかということから始めまして、池子区会の役員並びにですね、アドバイザーとして民生委員・児童委員さん、それから発達障害の会の手をつなぐ育成会の父兄の方、それから池子の駐在員さん、そういうメンバーで構成委員をつくりまして、議論をしてみました。

これは山の根、小坪と違ひまして、手挙げ方式という形で呼んでおりますけども、それとは別にですね、池子については見守ってほしい方、あるいは見守る方の募集をしないで、地域全体、区民全体が安心してですね、暮らせるためにはどういう形がいいのか、まずそれを考えようじゃないかと。お互いが見守り合うこと、継続してできることがまず大事ではないかなということからですね、先ほど組織図がございましたが、組長さん、一番下の住民に近い役員さん、組長さんなんです。で、組長さんというのは自分が住んでる周りの10軒、あるいは多くても20軒を担当されておるわけです。ですから向こう三軒両隣の方にですね、組長さんを通じて気配りをするよと、そういう形のまず風土をつくろうではないかと。ただし組長さんに大きな仕事、責任というものを負わせるということはちょっと問題があるので、地域全体でかさ上げをしようということの大きな柱をつくってですね、そこから始めました。

ただ、そのためには地域の人たちが何が必要なのか。例えば隣のおばあちゃんから何々について聞かれても、それについては的確な情報なり答えを持ってなければ、単なる愚痴のこぼし合いになっちゃうよというようなことからですね、今、お手元がございます「地域・暮らしの困りごとをどうしよう」という資料と「宅配情報」、皆様のお手元がございますが、これは社会福祉協議会さんの協力というよりも、社会福祉協議会さんのほうでいろいろと我々委員会との間で議論をしながらつくってですね、そういう資料をまず地域の皆さんに配りましょうと。その中には議論の中で出てきた、どういうことが困ってるのかな、例えば庭木の剪定はどうよ、電球のつけかえはどうよ、重いものの取りかえがどうとかと、いろいろなことが入ってるわけですけども、それはどこへ連絡すればいいのというまず情報の発信源を皆さんにお伝えしようよと。そうでないと、助け合おうと言ったって何が何だかわからないじゃないかということか

らですね、出発したわけなのであります。

それでその後、この情報をまず皆さんにお配りをした後、その認知度、使用度、頻度というものについて、全部にこれを、やはり社協さんの御協力を得ましてアンケートを実施いたしました。アンケートの中身については詳細はまだ結果は出ておりますけども、今後についての指針という形でございますので、詳細をちょっと省きますけども、これのアンケートを実施いたしまして、非常にうれしかったのは795世帯、先ほど区長からお話ございましたが、その世帯に全戸配布という形でですね、やはりこれも組長さんの御協力を得まして回収いたしまして、回収率が82.7%と非常に大きな関心を持っていただいて回収させていただきました。

この中で、中身は別でございますけれども、今後の大きな「お互いさま池子」を進めるに当たって大きな指針になるのではないかなという答えが一つございます。これは設問の中で「困りごとがある方に手助けをしたいか」という設問に対しましてですね、回答数が559、回答率が85%の中ですけども、その中で手助けしたいという方が42%、少しなら手助けしたいと思うというのが46%、要は88%近くの方がですね、何かあれば助けたいよ、少しならばお助けしたいよという風土がですね、地域にあるということが、非常にこれからこの「お互いさま池子」を進めるに当たっての大きな支えになるんじゃないかなと思います。で、準備委員会といたしましては、この結果を今後もいろいろと議論しながら、特に今お話ししましたことをどういう形でですね、メニュー化していくかということが一つの大きなポイントになるのではないかなと思います。

これはたまたまふれあいサロンというものを真ん中に置いてございますけども、地域のですね、いろいろな助け合いとか、そういう地域の交流とか、そういうものを進めるためには真ん中にたまたまふれあいサロン、これは私が担当してるですね、そこがございますけども、そこは何も自治会であり社協さんでもあり、行政でもいいわけです。要はこういう部分の、お互いが連鎖のつながりの中、絆を持つことによってですね、地域活動なりということがどんどんどんどん進んでいくんじゃないかなと。縦割り行政ではなくて、お互いがやはり鎖のまま一つのつながりによって、こういうことが進められるのではないかなと思います。以上です。（拍手）

【司会（福本課長）】 柏村様ありがとうございます。お話の中で「地域全体でかさ上げ」といったような表現ありました。役員だけじゃなくて一人ひとりがプレーヤーになるんだといったメッセージだと思います。このことは先ほどの避難所運営業務でもまさに同じことが言え

ます。今後の池子の皆さんの奮闘に期待をしたいところです。

では続きまして5番目です。「ていーるーむ篠」につきまして、ふれあい篠の会の代表の岡本様、お願いいたします。

【岡本】 篠の会の岡本と申します。日ごろいろいろな面から御協力いただきまして、ありがとうございます。きょうは簡単に御報告させていただきます。座らせていただきます。

1990年の初夏、池子小のPTA仲間が集いました。末っ子も小学生となったころ、子育ても一区切りの団塊の世代です。坂や谷戸が多く、高齢化も進む池子に住んで、将来何が必要でしょうか。主婦にできる地域ボランティアは何でしょう。生きていくのに最も重要なアイデア、しかも最重要で、しかも一番の楽しみは食、その安全性が脅かされつつあるころでもありました。現在も放射能汚染などとても不安な時期なんですけれど、当時はチェルノブイリ事故でした。放射能の害、食品添加物、合成洗剤、農薬の被害などが注目されていました。食品表示も不備でしたし、食の安全を求めて生活クラブや生協活動も盛んに行っていました。

そんな食の大切さを柱に、年をとっても楽しく食事をとりたい、そして地域の皆様とのふれあいを大切にしたいとの願いから、御高齢者への宅配弁当ボランティア「ふれあい弁当篠の会」が発足しました。旧池子区地域と新アザリエ団地地域の主婦同士の連携と、御高齢者を中心とした地域交流、加えて生涯教育、社会参加も目的といたしました。

高齢者センターの調理室をお借りできまして、月1回ですが季節感あふれるお楽しみ弁当を、だし取りから8品目のメニューを2時間半で調理、5台の車で115食のランチを宅配、500円いただいて2時に容器を回収し、片づけて反省会と緊張感あふれる活動でした。さまざま工夫を重ねて活動する中、念願の逗子市の福祉給食も普及し、みんなで応援したミニバスも開通しました。食品表示も意識も改善されつつあります。

2008年3月、173回目のお弁当を配達し終わり、これに区切りをつけました。18年間続きましたので、私たち会員も高齢化しつつありました。2008年5月から池子会館の2階をお借りして、ティールームを催すことになりました。ふれあい篠の会の会員25名が年会費2,000円を出し合い、御高齢者を中心にどなたでも御利用いただける喫茶室をと努力しております。市からの御協力もいただい、参加してくださる方に100円いただいて運営しております。

ティールーム篠は、食の大切さをもとづえに、4つのポイントを生かしています。お菓子、手芸、文庫、それにお便りです。第2火曜日の午前中、当番会員こだわりのアイデアでお菓子を調理します。カフェオレ、白玉、ヨーグルトババロア、イチゴ入り桜餅、花びら餅など、コ

ーヒー・紅茶・日本茶にも合います。おいしいんですよ。

次に、楽しくお話ししながら仕上げる手芸品を御提案します。会員のアイデアや発掘で御一緒につくります。押し花の先生をお招きすることもあり、ちぎり絵・切り絵・折り紙のグリーティングカードなど、とても好評です。あさって9月13日はこのペーパーフラワーをつくります。新聞紙でできています。

そして1カ月間貸し出しできる文庫もますます蔵書がふえ、5冊ほどお持ちになる方もいらっしゃいます。これが常時閲覧できるといいのになと思っております。

加えて、お召し上がりのお菓子のレシピつきお便りを配布しています。会館までいらっしゃれなかった御高齢者の方や、子育て中の若いお母様方にも会員がお便りをお渡ししています。

ティールームのよさは、直接対話ができることです。生活情報がいっぱい吸収できます。情報公開や地域交流のできる有意義なひとときです。お客様の数は、47名と特別な日もございましたが、平均25名ほど、お待ちする篠の会の会員は17名と常ににぎやかです。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

篠の会の活動は今年22年目となります。会員25名の平均年齢はとうとう65歳となりましたが、気持ちは発足時のままの若さです。今回の震災でも募金を集めては、まず送って、現地の要望する品をその都度御近所にお声かけして集め、2度のトラック便に託したり、交流の炊き出しのお手伝いなど、何かの折、ささやかですけど差しのべられる手があります。

食の大切さを学び、伝えながら大好きな池子地域の井戸端づくりを考えております。どんな世代でも共通にほしいのは、集える場ではないでしょうか。公民館のない池子です。例えば池子会館の無料開放日があったらいいなと思います。ミニ図書室・談話室があって、その日会館に行くとはどなたか顔見知りの方がいらっしゃる、そんな待ち合わせ場所が池子にあったらすてきだなと篠の会は考えます。ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本課長）】 岡本様、ありがとうございます。集える場所といったことですね。確かに場所というのは、こういったことを進める上でも大きなポイントになるんだなということを改めて感じさせられました。池子会館の今後のあり方も含めて、地元の皆さん、そして行政も含めて考えていきたいなと思います。

続きまして6番目の発表に移ります。「池子健康まつり」につきまして、池子体育会理事長の北島さん、よろしく願いいたします。

【北島】 池子体育会の北島です。きょうは池子地域の運動会「池子健康まつり」について御

紹介をさせていただきます。

最初に、池子健康まつりの概要について簡単に御紹介をいたします。これは昨年のプログラムの抜粋でございます。昨年が34回ということで、今年は35回を迎えることとなります。池子健康まつりの前身は、池子区の運動会で行われておりました。その後、山の上にアザリエ団地ができて、池子小学校が開校されたことに伴って、地域全体で運動会をやるんじゃないかということになりまして、35年前に第1回の池子健康まつりが開かれました。当日は、当日といいますが、この健康まつりのときは約1,000名の方が参加をされまして、秋の一日楽しく過ごさせていただいております。

これはプログラムの内容ですが、幼児から大人の方まで幅広く楽しめる種目が網羅されております。この◎が地域対抗の競技でございまして、特に地域対抗の女子のリレー、男子のリレー、このときは会場が大変盛り上がります。このプログラムを進行するために当日は子ども会さん、PTA、体育会、各種団体の方々約100名以上の役員が、このプログラムの進行に携わっております。

これは運動会の風景でございますが、こちらがむかで競争ということで、息を合わせてですね、右左、右左というふうに進みます。息が合いませんと足が乱れて転んでしまうということになります。こちらのほうは、人気者に扮しますファッションアラカルトという種目でございます。池子小学校の先生方にモデルをお願いをしております。こちらの先生はたしか少し前の校長先生だったと思います。

池子健康まつりは地域全体で幅広い協力をいただき成り立っております。主催は池子体育会、池子小学校PTA、池子子ども会連合会後援会、この3団体が主催でございまして、この3団体で池子健康まつり実行委員会というのをつくりまして進めております。そして逗子市消防団の第4分団、池子には先ほどお話がございましたが全部で11の自治会がございまして、すべての自治会、池子小学校の多くの先生方、逗子中学校のPTA、こういう方々、あるいは団体の協力をいただき成り立っております。さらには、池子には約50の商店・事業所がございまして、ほとんどのところから力強い協賛をいただいております。

このように池子健康まつりは盛大に行っているわけですが、大きな課題がございます。子ども会の加入率が池子は約60%と、逗子市全体では比べましても高いほうだというふうには聞いておりますが、それでも年々低下しつつあるということで、役員のなり手がいない、こういう行事のときは大変だということがございまして、また健康まつりについて言えば未加入の子供

さんや家族の方が参加しづらい、しにくいという声が寄せられております。そこで今年は実行委員会ですらいろいろ検討を進めまして、全戸配布のプログラムやチラシで参加の呼びかけを強めようと。それから子ども会・自治会ごとに応援席を設けますが、そこに触れ合い席というのを設けてだれでも自由に参加できるようにしようといったことを、今年は試みとして行います。そういったことを通じて一人でも多くの方が一日楽しめるということができればというふうに思いますし、その結果として子ども会の加入率が上がるということにつながれば、大変ありがたいというふうに思っております。

今年は第35回の健康まつりになるわけですが、現在準備の真っ最中でございます。実行委員会ですら8月から当日まで約6回から8回の検討・準備を重ねて、夜遅くまでかかることもあるわけですが、進めております。今年は10月8日（土曜日）9時半から、雨の場合は1日順延ということで開催を予定しております。きょうお集まりの皆様方につきましても、ぜひ当日参加をいただければ大変ありがたいというふうに思います。

最後になりますけれども、池子健康まつりというのは何なんだろうかということをお少し考えて見ますと、役員その他含めてですね、大変準備等々で苦勞も多いわけですが、そういったことを通じまして、1つ目は子供たちの楽しい思い出づくりの場であるということと、人を知り、つながりが強まる場ではないかというふうに思っております。これからも役員一同、池子健康まつりがさらに発展をするように努力を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本課長）】 北島様ありがとうございます。そうですね、今年の健康まつりまであと1カ月くらいありますので、当日けがないように今から少しずつトレーニングにも励んでいただけたらなと思っております。ありがとうございました。

7番目の発表に移ります。「アースディ逗子@池子小学校」というテーマで、池子小学校PTA会長の村上様、そして副会長の小原様です。よろしくお願ひいたします。

【村上】 こんにちは。池子小学校PTA、今年会長をやっております村上と申します。よろしくお願ひいたします。

【小原】 副会長の小原です。よろしくお願ひいたします。（拍手）

【村上】 座らせていただきます。表記にあります「アースディ@池子小学校」でありますけれども、一体何なんだろうと思われると思っております。これは毎年PTAのほうが主催で、PTA触れ合い行事としていろんな試みをしているんですけれども、そちらの今年の企画としてアース

スディ池子小学校ということで、今年開催させていただきました。その報告をさせていただきます。

このパンフレットは今年配られたものなんですけれども、まずアースディって何だろうっていうふうに思われると思いますので、そこを紹介したいと思います。1970年アメリカで、環境の抱える問題に対して人々に関心を持ってもらいたいという目的で、4月22日を地球の日としてアースディというものが誕生しています。アースディというのは世界的にあちこちの国で行われていますし、日本では今年は5月の初めだったと思います。「アースディ東京」という大きな催しが代々木公園のほうで行われています。去年私が参加をしてすごく感銘を受けましたものなので、今年ぜひ池小に持ってきていたいということで行いました。

どうしてそのアースディを小学校でっていうことなんですけれども、今年、奇しくもきょうが半年になりますけれども、3月11日の出来事がありまして、地球のことを大切に思わなければいけないとだれもが思っていた時期だと思います。それを子供たちに遊びを通して環境のことを考える機会をつくりたい、また地域の触れ合いですので、地域と触れ合いながらこのアースディを開催したいということで行いました。

これが看板係がつくってくれたアースディの看板なんですけど、子供たちが顔抜き記念写真をつくれるようにしました。また、東日本大震災の被災地への支援金をこの会の参加費を各ブースから集めて、また来場者からも集めて送ることができました。

毎年アースディの、触れ合い行事というのは秋に開催しているんですけれども、どうしてこの触れ合い行事を早めに行ったかといいますと、逗子では6月に、皆さん御存じだと思いますけれども、環境ウィークスとして市内でいろんな環境の催しが行われています。そのイベントとして私たちも出たかった。またソーラークッキングというのは御存じでしょうか。パラボナアンテナみたいなもので太陽の力、熱を集めて調理するものなんですけれども、それをするのに5月、6月ぐらいの日差しが適しているので、6月に開催いたしました。

また、先ほどと少し重複しますが、どうして学校でアースディをということなんですけれども、環境教育というのは何かイベントとしてやってもそれに興味がある方しか参加しません。しかし学校教育、学校の中で行うことで興味のある子もない子も分け隔てなく参加できる、伝えることができるということがとても大切だと、アースディの創始者の方もおっしゃっています。

【小原】 開催の準備期間ですが、2カ月という少ない中でお母さんたちが頑張ってくれまし

た。開催準備は運営委員会、四役会議、学級委員も交えた合同委員会で行いました。それぞれの会議での活発な意見、委員の積極的な行動力で、前日準備までスムーズに行うことができました。

【村上】 あと先ほど伝え漏れますけども、6月の環境月間で取り上げていただいたことによって広報と、環境ウィークスのチラシが広報と一緒に入りますけど、そこで大きく取り上げていただきました。それによって何と鎌倉ケーブルテレビから取材の依頼があったりとか、あと湘南ビーチFMからオファーがあったりとか、ラジオ出演なんかも会で行うことができました。それがまた参加者の増加につながったものと思います。また、私たちから神奈川新聞のほうにアピールをして、結果を載せていただいたりもいたしました。

一番上に、合言葉は「自分たちが楽しもう」というふうに書いてあります。PTAの役員活動というのはなかなか義務とか責任とか、やらなければならないということで、どうしても暗い気持ちになりがちなんですけれども、私たちは自分たちが楽しもうということで、エイエイオーということで当日始めました。気をつけたところとしては、自分たちがきちんと共有したイメージを持つということ。また、それにかかわってくださる環境の、地域の団体の方たちもメリットがあって、その方たちも気持ちよく参加できるということを大切に気を配りました。あと、安全に気を配りました。

【小原】 アースディ当日は暑いくらいの晴天で、池小の子供たちやほかの小学校の子供たち、地域の人など約300人の人出となりにごわいました。池子地区の掲示板や自治会の回覧板でのお知らせもしました。

5つのエコブースでは、ずしし環境会議による手回しソーラー発電での模型電車がありました。そのほかには、リサイクル広場、ソーラークッキング、液状化実験、逗子の生き物写真展がありました。6つのエコワークショップでは、まず写真にありますように、PTAブースは英字新聞を使っておしゃれなエコバックをつくりました。池子ヒルズが地域内にあるので、バック200個分の英字新聞もすぐ手に入りました。そのほかには子供たちが喜んだものがたくさんあるんですけど、竹とんぼづくり、エコはがきづくり、マリンクラフトづくり、あと子供たちの給食の廃油と食べたゼリーカップを使っての石鹸づくりを行いました。あと子供たちお楽しみの食べ物は、2台のキッチンカーとお弁当や飲み物、池子地区のパン屋さんにも出店していただきました。

【村上】 反省としては、準備期間がちょっと短かったので、かなりハードなスケジュールに

なったということで、関係団体の方にもかなり驚かれたということと、あと前日まで何と雨天の予想だったんですね、ほとんど。なのに晴れてしまったので仕込みが足りなかったということですね。あと、やってみて気づいたことというのは、それぞれの団体の…ごめんなさい、ちょっと今、1分に出てこなくて。自分でできる作業があったらよかったとか、皆さんでやりました。で、あと30秒です。楽しい空気は自分たちからということで、何しろ楽しもうということでやりました。で、触れ合い行事というのは地域と子供たちとが触れ合う場になって、よい機会ですので、今年はアースディでしたけれども、毎年、開成高校をお呼びしたりとか、逗子高校をお呼びしたりして活動しているよい機会ですので、ぜひこれからも行いますので、皆さん、参加をしてください。

あと、それで一番最後に「楽しむ」と書いてありますけれども、そういうイベントが成功するかどうかはかかわっている人たちが楽しくやっているのが一番のポイントだと自分たちは思っています。

あとこれのお話があった後に、学校支援地域本部のこともお話ししてほしいということでしたので、少しお話しさせていただきたいと思います。先ほど参加、お話ししていただいています伊藤さん、北島さん、ゆめクラブ老人会の吉田さん、あとコーディネーターである市川由美子さん、で、私の5名が学校教育委員会と地域教育協議会ということで、学校支援地域本部の実行委員会を行っています。学校支援本部ってなかなか聞きなれない言葉だと思いますけれども、みんなで支える学校、みんなで育てる子供ということで、文部科学省が行っている活動に私たちは一緒に活動しているということです。校長先生が今、いらっしゃっていますけれども、この地域はおらが学校、おらが地域というふうに思われている方がとても多くて、すごく助け合いをするのにありがたい学校だというふうに思われているということを最後にお伝えして終わりにしたいと思います。御静聴、長くなりましたけれども、ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本課長）】 ありがとうございます。「楽しい」という言葉がキーワードだったことですね。実は伺っていて、ティールーム篠の岡本さんのときも楽しいという言葉がありましたし、池子健康まつりで、北島さんからも楽しみながらという言葉があったというふうに記憶しております。今回の地域版のトークでは発表者の方から楽しいという言葉が今までよりも一番多く出てきたような気がしております。どうも発表ありがとうございました。

では最後の発表になります。市長のほうからお願いいたします。3つほどお話をさせていた

できます。ゼロ・ウェイストの取り組み。池子住宅地区及び海軍補助施設内の一部土地（40ヘクタール）の共同使用について。そして第一運動公園の再整備につきまして。以上の3つについてです。よろしくお願いいたします。

【平井市長】 皆さんの話を聞いて、いやあ池子はすごいなと率直に思いました。今までの中で、実はお祭りのテーマを発表いただいたのは池子が初めてなんですね。もちろん久木でも小坪でも沼間でもね、ずっと歴史的に長いお祭りがね、地域の一つの核になっているというのがありましたけれども、私も実はきょう、齊藤区長から初めて聞いて、ああこんな歴史があるのかというのを再確認いたしました。

それで、私のほうからは今、司会から言った3点についてね、特に池子の皆さんには、これゼロ・ウェイストと書いてありますが、ごみの問題ではまさにクリーンセンターが池子にあって、本当に御迷惑も含めてお世話になっている地域です。本当にありがとうございます。今、市ではとにかくごみを徹底的に減らして、地球にやさしいというか、社会にとってごみをとにかく生まない、そういう地域をつくりたいということで計画をつくりました。10年後にはですね、燃やすごみは3分の1にしようと。で、埋め立てる量を10分の1にしようと。これを目標として掲げているんです。で、燃やすごみを3分の1にするということは、生ごみと植木の剪定のごみ、これを焼却炉に入れないことです。そんなことできるのかよと、こういう疑問も湧きますけれども、とにかく燃やさないで済むものは燃やさないということで懸命に、これはまさに地域の皆さんと一緒に取り組まなきゃいけない課題だと。今、焼却炉は実はもう27年たっていて、老朽化しています。かなり手入れが大変で、来年、再来年と大規模改修します。これに30億ぐらいかかります。でも、これはもうやらなきゃいけないので、とにかく改修してもたせると。で、最終処分場もすぐ隣の敷地にありますがけれども、これももう普通だったら2年で満杯になる、そういう計算でした。これも来年から延命化ということで、とにかく圧縮して、かさをふやすんですね、それで、恐らく7年程度延命化できるということになっています。それにも2億円ぐらいかかります。でも、7年、8年、仮に処分場が延びても、今までどおりごみを捨てて埋め立てたら、もうまさにそれでもう満杯になって、もうこれは逗子の中では処理できないということになってしまうんで、とにかく燃やすことを減らすというのがね、最大のテーマなので、とにかくみんなで協力をしていきたいというのが一つです。

で、構成生ごみのいろんな相談を受けたり、植木のチップ化の機械も今、クリーンセンターに入れました。家庭用に貸し出しする小型のチップ化の機械もあります。そんなことを努力し

ながら、できたチップを公園に散布しています。ハイランドの公園に散布しました。これ非常に評判がよくて、ぜひ皆さんの地域でも活用いただければと思います。さっきリサイクル広場が出ていたかな。今、市役所のほうとかいろんな場所でリサイクル広場というのを市民のごみゼロ・ウェイストの会の人たちがやってくれています。そういうところにまだ使えるけれど自分ではもう要らない物を持ち込んでいただいて、物々交換をしたり、そんなこともやっていますし、公民館とか市役所とかで拠点回収を始めました。これを市域にとにかく広めて、歩いて何百メートルかぐらいのところにはね、そういう資源の持ち寄りステーションがあれば、今までは家の前のステーションにはね、いわゆる粗大ごみとか、あるいは不燃ごみでね、捨てていた物もそういったリサイクル広場でみんながもったいないものを、使い回していける、そんな方法をみんなと一緒につくっていききたいなと、そんなふうに思っているんで、ぜひこの池子の地域でも施設いっぱいあります。後ほどまた話しますが、地域の中でこうしたリサイクルあるいは生ごみのね、資源化・減量化ということを進めていきたいと思っているんで、ぜひこれも皆さんと一緒にこれからいろいろディスカッションをして、この池子の中でもっともったごみをね、減らすにはどうしたらいいかということを考えていきたいなと思っています。

もちろんステーションを、家の前のステーションの悩みがこれ一番市民の皆さんにとって大きな悩みですから、苦情も一番それが多い。でも、これは地域の中で解決しなければ一向によくなっていかないので、とにかく生ごみさえ分ければ、家の前のステーションもカラスに荒らされませんから、カラス対策にはもう生ごみをいかに分けて燃やすごみ出さないよということなんです。これをぜひ力を合わせていきたいなと思っています。

それから、次、40ヘクタール出ましたね。池子の米軍家族住宅の問題、これは本当は30年来の大きな逗子のまさに課題でした。いろんな長い歴史的な経緯を経て、今、40ヘクタールと言っていますけども、西側の運動施設、400メートルトラックや野球場、テニスコートがある運動施設と、そのさらには池子の資料館もありますね。そして、そのトンネルの先には今、キャンプ場が広がっています。そして、周囲の山などには川もあり、池もあり、ハイキングコースもあって、本当に豊かな自然が今でも残されている。これは40ヘクタールの大体一帯の様子ですけども、ここを共同使用と言っていますが、提供地ではあるけれども、市民が自由に入って憩うことができる公園を実現したいということで、今、国と米軍との交渉を進めています。もちろん逗子としては、土地はただで貸してくれと。こういう交渉をしているということで、これは平成26年度にオープンさせたいと。26年度、あと3年ちょっとですね。を目標にこの40ヘ

クターの公園を皆さんと開所式を迎えたいということで、今、懸命に交渉しています。したがって、まだまだ相手のある話なので、これは難しい課題ですけども、私としてはもう今、最重点課題として取り組んでいるということをも、特に池子の皆さん、地元ですからね、お知らせしたいと思います。

それから、最後もう1点、池子のね、第一運動公園の再整備、これもいろいろ御議論ありましたけれども、今、実施設計が進んでいます。今のプール、25メートルプールと流れるプールと50メートルプールがありますけども、あのエリア一帯をですね、再整備して今、模型の写真がありますが、25メートルプールと流れるプール、それから体験学習施設と言っていますが、地域の小さい子供から高齢者の方までいろんな活動ができる。そういう施設の整備を進めようとしています。で、中には今、ちょうど見えているところはラウンジ機能ですね、プールのすぐ横手に。ここはいつでも自由にふらっと来て、打ち合わせしたり、人といろいろと活動したりということができる。そんな施設があるのと、あとは子供たちのためのプレイルームとか、あるいは学習できるような会議室であるとか、それから、そうですね、小学校の体育館程度の運動施設の屋内運動室もあったり、それから、公民館の講堂ぐらいの、沼間公民館の講堂ぐらいの1フロアがあって、そこではダンスができたり、あるいはバドミントンができたり、それから時にはちょっとしたミニコンサートができたり、そんな施設を今、予定しております。したがって、この池子の第一運動公園の再整備が24、25年の2カ年で予定していますので、池子地区、これからいろいろ施設も整備され、池子の40ヘクタールの公園も実現するということがなれば、本当に大きく変わっていくと思います。で、きょう、いろいろ御発表いただいた皆さんの活動が、こういう場所も含めてさらにさらに充実していくということで、そのためにも皆さんのですね、いろんな力が結集して、この地域でのつながり、それから地域の中での自治運営というものをですね、発展していくということを私としても願っていますし、皆さんと力を合わせて進めていきたいなど、そんなふうに思っています。

今、小学校区ごとにこのトークをしているわけですけども、ぜひこの小学校区の中でいろんな人の力を合わせて、さらにいろんなね、地域の活動を自主的に運営していける。そういった組織であるとか、あるいは行政からの資金的な支援あるいは人的な支援、こういったものをですね、しっかりと仕組みをつくって、皆さんの活動がよりやりやすく、そしていろんな方々が世代を超えてつながり合える、そんな取り組みをですね、これから皆さんとしていきたいなど、そんなふうに思っていますので、きょうのトークを皮切りにまた次のステップへと進んで

いきたいと思っております。ありがとうございました。（拍手）

【司会（福本課長）】 はい、ありがとうございました。そうですね、ベルのおかげで、皆さん御協力いただきまして、私どもが考えていた予定から少し若干の遅れといったところで済んでいるところです。はい。

では、ここからですね、後半の部に入りたいと思います。市長の司会による意見交換になるんですけども、その前にですね、皆さん、もう少し柔らかい雰囲気になっていただこうということでもって、まず名刺を配っていただく。そして、頭の整理といったことでもって、この棚卸シートにちょっと御記入をしていただきたいなと思います。名刺はこの小さいものですね。私って、おれって、地元ではこういう人なんですよといったことですね。会社のこととか書くと会社の名刺になってしまいますので、あくまでも地域人としての名刺をお書きいただきたいなと思います。それができている人は、こちらの棚卸しシートにぜひ御記入ください。池子地区で行われているものをこんなことを知っているよとか、こんな場所があるよとか、あるいは今後こういったことがあったらうれしいなとかいったようなことをですね、裏表ありますので、ぜひ御記入ください。ちなみにこのきょうのこの会議室もですね、池子ですね、池子のはずれですが、池子です。こういった会議室も実は地元の皆さんの地域活動の資源だというふうにとらえていただけたらなと思います。たくさんあると思いますけども、私、こんなの知っているよというのをお書きいただけたらなと思います。そうですね、お時間、こちらの時計で25分ぐらいまでにちょっとやってみたいんですが、書いてからですね、隣の人、前の人、後ろの人にちょっと声をかけてみて、自分の自己紹介と、あとこのシートについて説明していただけてますでしょうか。よろしく願いいたします。

【市民（会場）】 福本さん、これは書いたらどうするんですかね。集められるんですか。

【司会（福本課長）】 基本的にはですね、御自分のものなんですけども、もしよろしければ、私どもの参考にしたいので、提出してもいいよという方がいらっしゃいましたら、最後会場を出るときにいただけたらなと思います。

（棚卸しシート作成）

【平井市長】 皆さんシートはお書きになりましたでしょうか。名刺はいかがでしょう。ぜひお近くの方と名刺交換をしてみてください。

名刺書けましたか。では、25分になったので、名刺をせっかくですから、前後左右どなたでも結構ですので、交換をぜひ、もうしましたか。大体日ごろおつき合いのある方じゃない方と

交換しないとあまり意味がないので、後ろ見たり、ちょっと隣のテーブルに行ったりして、はじめましてとか、ぜひぜひ。これは今、大きいけど、もう少し名刺大のものにしたいんですよ。地域の中でいろいろとこう工夫していただいたらいいんですけど、何かそういう形で初めての方でもこんなものと、こんなことを地域でやっていますというようなことをね、紹介し合えるような一つのネタですね。後ろの若い女性にぜひアプローチしてください。

はい、それでは、名刺の交換をされたことと思うので、初めて隣の人と会って、ちょっと盛り上がってきたかなという感じなんですけども。

はい、それでは、名刺も交換をされたことと思うので、初めて隣の人と会って、どんな方かなというのを、ちょっと相当盛り上がってきたかなという感じなんですけども、それでは皆さん、注目。もうあと30分ですけども、前半でそれぞれね、地域の皆さんの本当に熱心な活動の報告をいただきました。今、この棚卸しシートにもね、私の住んでいる地域に現在あるもの、行われていることという、そういう内容であるとか、これからあってほしいなといういくつかね、今の時点で皆さんが思いついたことをお書きいただいたと思うんですけども、どうぞぜひきょう発表された内容以外でね、この池子にはもっとこんなことあるよというようなことをお書きいただいた方がいらっしゃれば発表いただきたいと思うんですけど、どうでしょう。

池子外の方、地域からもきょうたくさん参加いただいているので、まずは、でも池子でもっとアピールしたいというのはありませんか。ちょっと書いて。ちゃんと御意見を聞いていきますので。どうでしょう。子ども会。池子の子ども会、ちょっとアピールしてください。さあ、いかがでしょう。どうでしょう、ありませんか。大体出尽くしているのか。じゃあほかの地域の方でも。じゃそっちに行きましょうか。将来こんなことがあったらいいなというようなことも含めて。マイクはあるの。

【市民（会場）】 一番今ですね、切実なのは、切実にですね、今感じるのは、池子に実はコンビニ1つもないんですね。それで、結構お年寄りの方なんかがおっしゃるには、牛乳パック買うのに電車乗っていかなきゃいけないと。で、パンを買うのにも一番近くて桜山のコンビニ、あと久木のハイランドの西友に、非常に今、苦勞していますね。これは行政でどうってことないんですけども、やっぱり何かそういうのがあるとうれしいですね。助かりますね。

【平井市長】 コンビニあそこに営業しているの、セブンイレブン来ないかね。

【市民（会場）】 ちょっと一ついいですか。

【平井市長】 どうぞ。

【市民（会場）】 オーケーストアの前でセブンイレブンをやっている飯山と申します。
（笑）で、さっき社会福祉協議会の立川さんにもお話ししたんですけども、福祉協力店ということはこの取り組みありますね。これうちの店でも以前からこれは違った形では協力していたんですけども、実際に入っていこうという形で今、お店で考えております。で、具体的に言いますと、池子地区だけにはちょっとできないんですけども、地区を決めて、例えばじゃあ月曜日は池子地区とか、火曜日は久木地区とか、そういった形で曜日を決めて配達という形で対応できればなと思っております。で、セブンイレブンだからこそできるものってあると思うんですね。例えば公共料金の支払いだとか、コピーを取るとか、そういったことまで結構深くまでなるべく何というかな、家にいながらコンビニが利用できるような、そんなふうなものができるばと思ひまして、今、お店でどうやってやったらそれができるかということをもんでおります。また、そのときには福祉協力店ということで、このラインを使って、それにちゃんと名乗り出てきますので、逆にこういったふうにやったら、そういうのを使えるだとか、そういった御意見ありましたら、ぜひ聞かせていただければと思っております。よろしくお願ひします。

【平井市長】 心強い。地域で、皆さんでね、起業するなんてどうですかね、お店をね。それだったら民間事業者に市の土地は貸せないけど、地域でNPOみたいにしていね、何かこう困ったね、こう売店をね、地域の皆さんがつくるとかというんだったら、それは何か市としてもね、土地を例えばね、提供するとか、そういうことはやれるかどうか、ちょっと僕は余り軽々には言えないんだけど、知恵をね、絞って、困っているの事実ですからね。それも一つの拠点じゃないですか。地域の人がね、コンビニから仕入れて、そこでこう販売とかね、例えばボランティアとか、多少のね、お給料を払ってとか、そういうことだって。あまり既成概念にとらわれずにね、考えてみて、できることを探るといのが一つかもしれませぬね。さあほかにどうでしょう。

【市民（会場）】 よろしいですか。2点ほどなんですけど、東逗子駅、あの周りの商店街の活性化というんですか、今、買い物に行くというと逗子駅なんですよね。地元の東逗子に現在、マルエツがあつて、これも何かなくなるという話もちらほら聞いているんですけど、その辺の活性化していただけると大助かりと。

もう1点はですね、私、アザリエ1期なんですけど、私のところから逗子駅に行くバスはあるんですけど、東逗子に行くバスがないと。僕はまだ足がこう動きますんで大丈夫なんですけど、私の母なんかもう年寄りで歩くのは大変。で、東逗子に病院があつたりとかいうことです

ので、その辺に回るバスですか。今はアザリエぐるっと回って、そのまま逗子駅に戻っちゃいますんで、トンネルのところを通過して東逗子を回るようなルートを考えて出してもらいたいと、そういうのを考えたいと思いますので。何せ年寄りがいて、池子小学校も山の上なんで、登って行くの大変なんですけど、その辺を少しバスが通るようになれば、年寄りももっと表へ出れるということで、やっぱりうちに閉じ込めちゃうとぼけてきますんで、表へ出れるような形でバスでやれるような形にしてもらいたいと思います。

【平井市長】 皆さんのその生活圏の中で、逗子駅方面と東逗子方面という、どんな感覚ですか。東逗子に出れたらすごく便利で、利用されますかね。どうでしょうね。マルエツは撤退するといううわさがね、出てて、まだ正式にその後どうなるのかということとは。

【市民（会場）】 市長が今、おっしゃったですね、私は桜山2丁目で、警察署本部の…消防本部の裏ぐらいとか、県道と水道路の間ぐらいですけど、要は東逗子とJR逗子駅のほうの商店街のほうとの中間ですね。いわゆる逗子の銀座商店街とか、あっちのほうがいろんな店あるんで便利は便利なんですけども、自転車で行くこと多いんですけど、自転車も最近いろいろ注意されちゃいますし。で、マルエツはね、使い勝手いいと思うんです。あらかたのものは売っているんで、こっちの警察署の前通ってくるんですね、道路もすいていますし、いわゆるJRのほうは混んでいるんで、ちょっとぐらいの買い物だったらマルエツのほうがいいんで、そういう感覚はありますね。だから、今言われたように、東逗子周辺にもうちょっとマルエツのように華やかになったら、もっと使い勝手がいいなという感覚ありますね。

【平井市長】 池子の皆さんは山を越えなければいけないんで、公共交通がないとなかなかあれでしょうかね、こうやって東逗子方面に行くというのは、地理的には難しいでしょうかね。ミニバスをいち早くね、導入したのもアザリエですから、もうまさに先鞭をつけたのでね、これは京急のバスなので、東逗子までね、ミニバスなりをこうね、通してくれというのが実現できるかどうか、これは全くわかりませんが、一つの課題としてね、行政もちょっと研究したいし、皆さんのいろんな意味でお力を借りて、何らかの足がね、確保できるといいなと思いますね。

ほかは。はい、どうぞ。

【市民（会場）】 大丈夫ですよ。大声ですから。

【平井市長】 こちらで要約を打っていただいているので。

【市民（会場）】 アザリエ第五自治会長の久保でございます。よろしくお願ひいたします。

今、東逗子のバスも大変結構なお話で、ぜひ実現できればと思いますけど、その前にですね、神武寺トンネルを歩けるようにしていただけると大変ありがたいと思うんですね。雨の日なんか大変なんですね、あそこ歩くのは。あと中も大分汚れていますし、水もぼちゃぼちゃ漏って、トンネルの中も傘差して、車が来るとさっと傘でよけています。あそこの広げるのは大変お金がかかって難しいかと思いますが、雨漏りがしない程度に、あと壁を掃除していただくと大変ありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【平井市長】 高野議員があそこにいらっしゃいますので、議会でもね、しょっちゅう言われています。なかなかお金のかかる話なんでね、そう簡単ではないんですけども、歩道を片側に寄せると広がってね、いいんだけど、そうすると今度は反対側の人不便だとかね、いろいろと課題があるんで、どういうふうにすればいいのか、少なくともぼろぼろのものが落ちたり、それは最低限はね、しなきゃいけないのは市の責任なので、その辺はしっかりとやりたいなと思いますが、これも長年の懸案であるということは重々承知しております。拡幅するとね、5億ぐらいかかるんですけど。5億、はい。土地の手当ても必要ですしね。

どうぞ、せっかく皆さんがね、活動内容を発表いただいたので、お互いにね、もっとここでこう連携したらとか、そういったね、御意見もいただけるとね、大変広がるかなと思うんですが。どうぞ。

【市民（会場）】 先日、連合自治会でいろんな話が出たんですけどね、年寄りが池子3丁目、2丁目あたり、非常に年寄りが多くなってる。買い物に行くにも大変だと。そういうわけで、スーパーと連帯した買い物バスですか、それができないかというのをこの間、連合自治会でもってちょっと話が出たんですよ。それで、それを皆さんでね、考えよう。そういうことをね、今、連合自治会で話し合っているんですけど、そういうのを市のほうでも少しそういうところを応援していただきたいなと。

【平井市長】 スーパーと連帯というのはどういうふうにするんですか。

【市民（会場）】 ということは、早く言えば、マルエツとか、スズキヤ、それから今度新しく六浦の横浜のほうに何かスーパーができたので、金沢八景のところ。

【平井市長】 その六浦の先に。

【市民（会場）】 ああいうところのスーパー、あそこ大きいから、ああいうあたりと連帯できないかという。

【平井市長】 送迎バスみたいな。

【市民（会場）】 それで、それをボランティアで何か交渉してみようなんていうような話も出ているんです。

【平井市長】 何しろ買い物は結構皆さんにとってはこの池子の中でね、なかなか便利がよくないということが悩みの種ということのようですね。どうぞ、若い人。どんなことやってますとか、やりたいですとか、ありませんか。どうぞ。

【市民（会場）】 2回目で恐縮なんですけども、今、買い物の話なんですけども、実は商店街でもそれはすごく話題になっていまして、僕こう思うんですけども、買い物する楽しみが必要だから、送迎ってわかるんですけども、とりあえずもっと上の方、もっと困っている方、本当に買い物できなくて困っている方がたくさん出てくると思うんです、これから。個々のお店でできること、それはそれでいいんですけども、できればですね、もう池子だけじゃなくて、向こうの小坪でもやっぱり困っているところたくさんありますから、できれば行政として配達ラインみたいな確保できれば一番いいんじゃないかなと僕思っています。そうすれば安否確認だとか、ほかの利用する人も出てきますから、例えば送迎用と、ほかの商店を募集して、そこに注文を流せばルートで、そのルートが集めてとか、そういったことができればそういった問題、少しは解決するのかなと思っています。そうすれば、今、弱小の乾物屋さんとか、そういったところは自分では配達できないですから、来る人も限られていますから、どんどん弱体化している。そういったことにも解決できるもので、もしそういうのができれば随分変わってくるんじゃないかなと思っています。

【平井市長】 さっきの話のね、続きだけど、コミュニティビジネスっぽいんですね。あそこの福本課長は前、企画にいてコミュニティビジネスをやっていたんですよね。だから、行政側がどうやって支援しながら地域の中でそういうね、こう担っていただける。商店の方も含めてネットワークができるかというのは一つのチャレンジする課題かもしれませんね。

さあ、いかがでしょう。さっき岡本さんから池子会館をね、もっとういっても、だれでも来るようなね、そういった活用方法というのを模索できないかというような御意見ありました。で、さっき申し上げたとおり、第一運動公園の再整備とか、幾つかの拠点施設が池子にはあります。保健センターもあります。高齢者センターもあります。ですから、そういった中で、じゃあどうやっていけば皆さんが一番ね、日々の活動なり生活が豊かになるかというのを、いろんな施設の大小ありますけども、保育園もあるし、もっともっとういって今ある施設を工夫してね、皆さんのための活用方法があみ出されればいいなと思いますけどもね。池子会館いかがでし

よう。なかなか常駐のね、スタッフを置けないというのがやはり課題で、どうすればもっとも
っといい施設になるかなというのを行政としても何か模索したいなどは常々思っているんです
が、実際に運営されている方々の悩み、こんなことをやればもっとよくなるんじゃないかみた
いなことがね、あるといいんですが。どうぞ。

【市民（会場）】 ちょっとお願いが1つと質問が1つあるんですね。お願いのほうから。沼
間公民館がですね、今度、市長御承知のように、連合会ができたんですが、あそこの今、事務
所があるんですが、あの事務所の一角、ちょっとでいいですから連合会にですね、早期に貸し
出しを、できないか、その辺の見解をちょっと。

【平井市長】 今、小坪と沼間に公民館があります。これは教育委員会の担当で職員を配置し
て運営しています。これをいわゆる生涯学習センターというか、地域のコミュニティセンター
にしようということで、これ今、行政内部で議論しています。そうして、地域の人に運営をし
ていただく会館にできたらいいなと、そういうふうに私は思っています。したがって、ほかの
例えば池子会館とか新宿会館も地域の皆さんに指定管理という形で運営を委託していますから、
それと同じようなスタイルでいろんな運営方法ですかね、それが決まってくるといいなと思っ
ています。ただ規模が大きいので、図書館分館としての機能もありますし、その辺にどこまで
行政が手当てをして、地域の方に任せる分は任せてというのをちょっと整理しないといけない
かなとは思っているので、おっしゃるようなことはぜひ方向としてはあと一、二年ぐらいでつ
けたいなと、そんなふうには思っています。

【市民（会場）】 そこまで今、時間がかかりますから、そこまで時間かけたくないんです。

【平井市長】 なかなかこれはね、条例があるんです。それなりに公民館は公民館条例という
のがあって、いろんなやっぱり解決していかなきゃいけない条例なり、予算なりね、というの
があるので、なかなか一足飛びにはできないというのが現実ですけども、方向性としては共有
できるかなと思っています。ですから、池子会館も本当なら常駐のね、スタッフを置けるよう
な市からの支援というのをね、まだ資金的にも人的にも、できればもう少し皆さんがこうあと
地域のマンパワーを活性化して自主的に運営できれば、もっともっと多分広がっていくかなと
思うんで、今、なかなかそれができていないので、何とかそこもね、議論したいなと、そんな
ふうには思っているんです。

【市民（会場）】 時間がないところを申しわけありませんが、もう一つ。柏村さんから先ほ
どお話ありました安心生活創造事業でございますけど、私どものほうもこういうことをやりた

いと思って今、いろいろ考えておるんですが、柏村さんの方で実施したアンケートは、大変に興味があるアンケートで、賛成が大分いらっしゃったということは我々としてもですね、心強いんですが、市の個人情報の関係でですね、大変憂える人が多いんですが、その辺の線引きですね。これをどう考えるかというのはですね、ちょっと答えにくいとは思いますが。

【平井市長】 これは全国の自治体が同じ悩みに直面しています。個人情報保護というのはね、やはり時代の要請があって、かなりクローズアップされて、出さないように、出さないようにというね、やっぱりブレーキがかかっていますよね。もちろんいろんな振り込め詐欺だとか、いろんなやっぱりトラブルもね、ふえているので、難しい課題ではあるんですけども、ただ法律の趣旨は必ずしもブロックすることだけじゃなくて、適正に管理をして、それで活用するというのもちゃんとうたわれているんです。ですから、地域の中でどうやって管理をすれば、そういったトラブルは未然に防いで、なおかつちゃんと地域の中の人と人とのね、つながりをやっぱり深めながらみんなが支え合っている、そういう関係づくりをね、できるかということとは、これは本当にね、自治体としての研究課題でもあります。そういう何か名簿の活用のための条例をつくっている自治体も、もう既に出てきています。ですので、さっき要援護者のね、話も出ていましたけども、そういったものをやっぱり研究しながら、地域の皆さんがね、何かのときに困るのは、ほんとその地域の人ですから、それをね、変な意味で過剰に保護、保護ということではなく、適正に管理しながら活用できるような方向で模索したいなと思いますね。

さあどうでしょう。

【市民（会場）】 すいません。最後に。全然話は違うんですけど、それはなしで聞く、防災課なんですけど、これだけ防災が重要になってきたのに、はっきり言って職員の方の数がちょっと少ない気がするんですよ。ですから、別に職員じゃなくても結構ですので、せめて今、小学校5つに避難所委員会がありますんで、1人ずつ最低担当ができる程度の人数は確保してもらいたいと思いますので、ちょっと経費節減の折、大変かもしれないんですけど、やっぱり防災課の充実を少し図っていただきたいと思いますんで、よろしくをお願いします。

【平井市長】 5月のトークのときも言われました。職員の体制を何とかね、補強したいということでは、防災課の人員もね、何とか補強する今、模索というか努力をしています。あとは各小学校のね、この担当というものをどういうふうに位置づけるかということも、これもおっしゃるとおり、なかなか仕事を持ちながらね、兼務するのも難しいというのがありますけども、それを何かやっぱりそれぞれの小学校ごとのやっぱり担当できる、そういう体制をね、つくっ

ていきたいなと思っています。

さあ、池子地区まだまだいろいろ活動があると思うんですけども、子育てのね、いろんなサークル活動みたいなものもいっぱい行われているんじゃないかなと思うんですが、そんなお知らせありませんか。こんなこと、若いお母さんたちも頑張っているよという。

【市民（会場）】 池子地区には保育クラブというクラブが保育、アザリエのほうで活動されているサークルがあることを御紹介いたします。あと私は池子だけに限らないんですけども、実は葉っぱの広場という未就園児、1歳から幼稚園行くまでの4歳ぐらいまでのお子さんの遊びの広場をやっております。その延長としてお母さんたちの働く場、または活動する場を広げる。あと居場所づくり、子育て中のお母さんたちの居場所づくり、子供たちの遊び場をつくるために葉っぱのカフェということで子育てサロンを今、実は市民協働事業として提案をさせていただいています。その中でカフェをあした準備をして、13日から16日に亀ヶ岡八幡宮のほうで4日間開催します。で、行く行く今、運動公園のほうのお話があったんですけども、そこにカフェがあるので、そこで子供たちの居場所づくりができればいいなという夢を持っています。今の篠の会のティールームのお話を聞いて、私たち子育て中のお母さんたちは子供が戻るときには帰りたいので、その後であるとか、曜日によってとかコラボできるなと思ってお話を聞いていたので、PTAのお母さんたちで始められたというところの今、何回もお会いしているのに、初めて何う話をきょうはお聞きできたので、いろんな発展がこれからあるなと思って楽しみにしています。ぜひ応援していただけたらなと思っています。

【平井市長】 ありがとうございます。安心生活とね、お互いさま池子の話も僕は実はさっき初めてアンケートやったとか、その回答率がこんなに高いとかね、何かあったらね、助けるね、意欲あるよという、これだけ池子の地域にね、多いというのは、聞いてすごく感動しました。ここから先、さあ柏村さん、どう進められますか。

【市民（会場）】 難しい。（笑）市長から今、ご質問がございましたけども、今後はやはりアンケートの結果をですね、委員会の中で相当今、議論しています。それを先ほども申しあげましたけども、具体的にできること、それからソフトの面とハードの面どうなのかということですね、委員会独自か、それから社協、それから委員会、それから池子の皆さんともいろいろですね、打ち合わせしながらやっていきたいなと。ただ、すぐに来年、再来年終わる事業じゃございません。地域の人が末永く安心して暮らしていけるという土台づくり、土壌づくりが一番大事ですから、じっくりじっくりやっていきたいなと私自身は思っております。以上です。

【平井市長】 ありがとうございます。モデル地域を山の根と小坪とでね、池子とで、3カ所で始めたんですけども、それぞれの地域によって全然取り組みの切り口が違いますね。先ほども御紹介ありましたけども、見守る人と見守られる人に手を挙げてもらって、それで自治会の人とか民生委員さんとか、社協とね、連携して、そのコーディネーターが見守る人に何か助けてと言ってる人をつなげてあげて何かをお手伝いしてあげるとい、そういう取り組みをしたりしている地域が小坪とか山の根とかね、そういう感じですけども、池子はまずはね、土台をつくろうということで、まだそういう見守る、見守られるという、相対の関係はここから次の先だという話なので、本当それはその地域ごとに特色があつておもしろいというふうに感じましたね。

さあいかがでしょう。小坪で去年の11月に最初のこの地域版やりまして、小坪の皆さんはもちろん盛り上がりましてね、もう自分たちだけでもうどんどんやると。それで、計画はこの地域の計画もつくりたいんだと。地域構想みたいなものをですね、つくっていきこうと。そんな動きがどうも盛り上がっているようです。沼間から今、橋本さんもいらっしやっていただきましたけれども、沼間には連合会なかったの、今、ようやくね、この5月に連合会を立ち上げて、沼間地域の一体感をね、より広げていきこうと、そんな動きも沼間でも始まりました。ですので、池子は、かなり歴史的に長く皆さんの地域のつながりというのが深く広くね、ありますので、さあ次のステップに向けてね、さあどうしようかということ、ぜひ皆さんでね、今、連携の話もありましたから、進んでいくといいなと、そんなふうに思っていますし、行政もしっかりとこれをね、サポートして皆さんと手を携えて、この池子地域のまたさらなる飛躍をね、一緒に考えていきたいなと、そんなふうに思っております。

12時になったので、大体今の締めという感じになりましたけど、どうぞ、言い足りないことがないように、いいですか。どうぞ。

【市民（会場）】 今ちょっと紹介されました沼間連合会をこの2月に呼びかけて、5月に発足しまして、今月、今週の半ばに第1回の総会を開きまして、いよいよ役員を決めて会則の確認をしまして、スタートするということになりました。それで、ちょっと現場の方々、特に伊藤さんをお願いがあるんですけど、一度連合会の我々はやっとこれから幼稚園に入るか入らないかのたぐいなものですから、いろいろ御指導をいただきたいんで、少し交流をさせていただかないかなと思って。それはお願いです。ぜひそういう形で一度ね、連合会のいろいろアドバイスをちょっといろいろしていただけるとありがたいと思っていますので、よろしくお願

いたしたいと思います。以上です。

【平井市長】 大先輩の池子の連合会にいろいろとアドバイスをいただきたいと、そんなお話でしたけども、どうぞ、何かあれば。

【市民（会場）】 どのようなことを知りたいのかということですね。大体連合会は、私たちの連合会がするのは各自治会の会長さんね、毎年会長さん変わりますが、連合会自体は変わらないです。会長は変わらないでずっとやっています。それで、そのときにですね、各連合会の自治会の会長さんのトークですね、いろんな好きなことをそこでもって発言してもらおう。それで、やってもらいたいこと、こういうことをやってもらいたいんだけど、それを今度各連合会、自治会の会長さんたちがそれを持ち寄って話し合うと。住民が言っていることは、会長がそれをまとめまして、会長がそれを市に提案する、また陳情に行くとか、そういうような方法でもって連合会は動いているわけです。

【平井市長】 ぜひ今度池子の連合会に参加されて、実体験をされたらいかがでしょうか。

はい、それでは、そろそろ時間になりましたので、この池子地区のですね、まちづくりトークはこの程度で終了させていただきたいと思いますが、本当にきょうは皆様、貴重な活動のね、これまでの成果報告というものをお聞きできて、私としても大変心強く、池子はもうもっともっとよくなるなあと、そんな実感を得て、きょうの会を開催することができました。さまざまね、課題がまだまだありますけれども、ぜひ皆さんの思いをね、つないでね、そして、この地域がもっともっと安心して、そして豊かに暮らしていける地域になりますよう、市としてももちろんしっかりとやりますし、皆さんのいろんな知恵、力をこれからも賜りますようお願いを申し上げて、きょうのトークの最後といたします。どうもありがとうございました。

（拍手）

【司会（福本課長）】 ありがとうございました。本日の予定は以上でございます。報告者の皆様、来場者の皆様、本当にありがとうございました。

御案内とお願いなんですけども、まず次回のまちづくりトークですが、10月2日の日曜日、10時からですね、行います。テーマは「スポーツの振興」です。会場はですね、スポーツといながらここではなくて、市役所の5階の会議室に当日はなります。10月2日、10時から、市役所5階で「スポーツの振興」をテーマに行いますので、よろしく御参加ください。

きょうのワークショップで作成いたしましたこのシートですね。お持ち帰りいただいても結構なんですけども、市役所のほうにぜひ参考にとということであれば、私ども参考にさせていた

できますので、御提出をいただけたらと思います。あわせて、アンケートのほうをお配りしているんですが、そちらにもぜひ御記入していただきまして、会場出口の職員に、あるいはそのままテーブルの上に置いておいていただいても結構ですので、ぜひですね、御記入お願いしたいと思います。

では、以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）